ひだご坊真宗教化センターだより

2021年11月号

発行日:2021(令和3)年10月28日　第16号　発行者:飛騨御坊真宗教化センター長・高山別院輪番　三島多聞
高山市鉄砲町6　℡ 0577-32-0776　web http://hidagobo.jp　✉ takayama@higashihonganji.or.jp

高山別院の運営

教化だけでなく財政も切実な課題となっています。

２０２０年２月以来、新型コロナウィルスが蔓延し、その猛威は衰えることなく、何度も緊急事態宣言が発出されるも、先の見えない状況下にあります。改めて「当たり前の日常」がいかに有り難いことであったかが思われます。

高山別院でも、定例法座・御堂番・毎年楽しみにしていたご坊夏まつり等が中止となり、一年の集大成であるご坊報恩講は、今年度も参拝方法・内容を見直し、縮小した形で勤めざるを得ない状況です。例年、満堂の本堂から聞こえる参詣者全員による地の底から響き渡る同朋唱和の声が、とてもなつかしく思われます。

「感染拡大を予防する新しい生活様式」として三密を避けることは、念仏相続としての教化活動が封じられることです。今後の教化のあり方を見直さなければならない時となっています。

教化の諸課題を踏まえ、昨年７月新教区が誕生することを機に、「飛騨御坊真宗教化センター」が新たにスタートしましたが、コロナ感染によりセンター教化が全稼働できないのに加え、別院財政は未曽有の危機を迎えています。

そこで、今回は過去にさかのぼり、先人が行ってきた別院財政基盤の立て直しについて振り返ってみます。

■別院財政の歴史―寺領収入から駐車場収益事業へ

高山別院は、江戸時代を通して白川郷において２３０石を「除地」として幕府から指定され、その面積は全国でも異例の広さでした。明治に入ってからは、門信徒からの土地や山林の寄進があり、高山市街地においても田畑を所有し、別院詰番（現別院会計）は、山林を市街地の田畑に替えては石高を上げ、別院財政を運営していました。

除地：江戸時代，幕府や藩から年貢を免除された土地。

ところが敗戦後、政治経済の機構が一変し、昭和２２年から２５年にかけて行われた「農地改革」によって、別院はその田畑のほとんどを失ってしまいました。さらに昭和３０年の木造本堂再建、続いて昭和４２年コンクリート造本堂再建にあたり、別院は残された財産を使い果たしてしまいました。かつて４００俵取りと言われた農地も、御坊山一帯の貸地などの収入も全てなくなってしまい、それまでの収入に見合う別院財政の運営は、継続不可能となりました。土地所有による収入の道を断たれた別院の財政はどん底状態となり、本堂等の維持は窮地に追い込まれました。

別院の地主的経済はここに終わりを告げることとなり、この時点で、別院の教化活動によって運営していく道を切り開き、別院財政の大改革がなされるべき時でありましたが、折しも昭和４５年頃から、飛騨高山は全国的に有名な観光地となり、高山への観光客の増加に乗じ、駐車場収益事業を始めることとなりました。駐車場経営は好調で、その収入により窮地を脱することとなります。

好調な収益により、本堂屋根の大修理、昭和５４年に輪番所の建設、昭和５５年に土蔵の建設、昭和５８年に別院会館の建設等、数々の設備整備事業を行うことができました。

さらに事業収益の一部は別院に回付され、別院の運営全般に充てられていきます。別院の駐車場事業に対する批判をいただきながらも、背に腹は代えられない収入源となっていきました。

別院境内地を利用した駐車場収益事業

■御門徒の御懇念による別院護持を！

今回、コロナによって、改めて私達にとって別院とはどのような存在なのか考える機会をいただきました。駐車場収益事業も開始以来、過去にない収入減となった今、別院としての目的を果たすためには、駐車場経営そのものの存在を含めて別院全体を考えていかなければなりません。いつまでも駐車場収入に頼っていては、飛騨真宗７００年の歴史と伝統に立った念仏の道場としての別院の存在意義が失われてしまいます。

かつて寺領が別院経済を支てきた時期を経て、現在は駐車場収入の回付金が支えの一つにはなってはいますが、７００年来の御門徒の皆様の御懇念と御懇志によって別院はお取り持ち維持されているのだと改めて感じ、過去にない駐車場収入の激減を「ピンチはチャンス」と捉え、一人一人が別院全体を切実に考えなければならない「時」を迎えています。

高山別院会計
飛騨御坊真宗教化センター会計
石井　宗

★センター・別院からのお知らせ★

※各行事は、コロナ感染の状況により中止や変更になる場合があります。

第１回　企画会議報告

去る１０月４日、第１回企画会議が開催されました。主な協議事項、確認事項は以下のとおりです。

1. **帰敬式推進計画について**（実践運動の趣旨及び現況理解のため資料の提供と説明）
   教区において「帰敬式実践運動推進計画」の立案が今年度の課題となっている。御坊教化センターとしても、三本柱の一つとして、具体的な取り組みの立案を教区の推進計画を踏まえて行うこととなるが、これに先立ち、実践運動の趣旨及び現況を理解するための資料を提供し説明をした。
2. **「帰敬式法座」の実施について**（概要説明・高山地区が一体となり進めることに決定）
   今年度を準備年度、来年度を実施年度として、本山指定により「帰敬式法座」が高山地区において実施される。その概要説明を行い、実施方法については、個別の実施組を定めるのではなく、また親鸞教室に充当させるのでもなく、高山地区が一体となって実施する方法（セントラル方式）をとることが決定された。企画立案及び実働スタッフについては正副座長で協議のうえ下記のとおり決定した。
   【企画会議】帰雲真智・四衢亮・旭野康裕・三木朋哉・三島大遵・北條秀樹・窪田純
   【各組・列座・門徒】畑中道子・三島見らん（列座）・夏野了・小倉輝穂・岩崎靜子
   宮本美和子・前田法俊
3. **その他**
   ①　慶讃法要事前学習会→公開講座や御回壇など既存の会を、テーマ学習の機会にする（個別の対応の方法については継続して検討）。
   ②　第２回「是旃陀羅」問題学習会→来年５月２３日（月）に決定。
   ③　別院報恩講執行について→コロナ状況に鑑み、計画通り勤修する。

岐阜別院報恩講団体参拝募集のお知らせ

このたび、岐阜別院報恩講が勤まるにあたり、下記のとおり団体参拝を企画いたしました。

コロナの状況下ですので、中止となる場合もございますが、お誘いあわせのうえ、ご参加くださいますようご案内申し上げます。

※日程詳細、お申込みについては、同封の「岐阜別院報恩講団体参拝案内」をご確認ください。

参拝日	１２月１０日（金）
定　員	３０名（定員になり次第、締め切ります）
参加費	￥５，０００－

宗祖・蓮師御影を奉掛　別院会館研修ホールお内仏

現在、別院会館研修ホールには、還來寺（高山２組）門徒、瀬ノ上博之氏より寄贈されたお内仏が安置されています。

研修ホールの御本尊としての安置でもありますが、センター教化、特にお内仏講習やお内仏研究のためのお荘厳としての意味合いも持ち合わせて安置されました。

このたび、そのセンター教化に資することのために、寄贈いただいたお内仏のお脇掛を、六字名号から宗祖・蓮師影像に入れ替えが行われました。

聖徳太子１４００回忌特集②　本願寺教団と聖徳太子 ― 鎌倉後期から室町期・江戸期を中心に ―

【鎌倉後期初期本願寺における聖徳太子】

親鸞聖人以後、初期の本願寺では聖徳太子をどのように受けとめていたのでしょうか。

現在、西本願寺には、親鸞聖人が正嘉元年（1257）５月に撰述編纂した太子の伝記『上宮太子御記』(徳治２年(1307)）が残されています。親鸞自筆本は伝存しませんが、本願寺三代覚如上人自筆の部分と他の人の筆による写本です。覚如は、三河の寂忍なる人物が親鸞自筆本を写した弘安６年(1283)の書写本を三河造岡道場で見ています。当時、覚如は眼の病により人の手を借りて和田宿坊で書写していますが、表紙と内題と後半部分は覚如自身が書写したことが奥書から判明しています。内容は『三宝絵』『日本三宝感通集』『文松子伝』から抜き書きされて成立しています。抜き書きしたのは親鸞聖人自らであり、太子和讃も『聖徳太子伝暦』を中心に太子の事績に沿いながら取捨選択されています。そこに親鸞聖人の聖徳太子観があり、注目されるところです。

岡崎・満性寺の『聖徳太子内因曼荼羅』には、『上宮太子御記』を撰述したことを伝えています。

【室町期本願寺における聖徳太子】

室町期蓮如上人の十男・実悟が書写した『聖教目録聞書』には、「当流用所之外聞書聚者也」として、本願寺に代々伝わった聖教類以外に聖徳太子に関する史料が以下の４点含まれています。『太子伝』『聖徳太子御起文』『聖徳太子会指示』『太子讃嘆表白』ですが、『太子伝』は『聖徳太子伝暦』であり、『聖徳太子御記文』は太子が書いたとされる金石文で、廟窟偈と瑪瑙石文の伝承を記録したものです。『聖徳太子会指示』は太子絵伝の絵解を指し示す詞書と考えられます。『太子讃嘆表白』は、太子の命日（太子講）で法要次第を読み上げる表白文と願意を漢文体で述べる式文で、各段から構成されています。正式名称は『聖徳太子講式』といい、古くは慈円による「皇太子五段嘆徳」があり、四天王寺聖霊院所用のものです。鎌倉期には太子ゆかりの寺院での儀式に講式が用いられ、法隆寺はじめ西大寺所伝は叡尊作三段式が知られます。

本願寺八代蓮如上人は、山科本願寺において、太子の命日である２２日に「太子講私記」を拝読し、各老衆や息子・実如に聖徳太子について物語っていることが、『山科御坊事并其時代事』『本願寺作法之次第』『実悟記』の史料から知ることが出来ます。

【真宗寺院奉掛の太子御影】

現在、真宗寺院の余間に太子・七高僧の各御影が荘厳されるようになったのは、山科本願寺時代の蓮如上人の頃と考えられています。『真宗故実伝来鈔』の「高僧・太子之事」には、［太子・高僧ハ蓮如上人ノ御時ヨリ免セラル、ト見ヘタリ］［蓮師ノ時、初ハ太子・法然・六祖三幅ナリ、其後ノ御免ハ太子一幅、七祖一幅、二幅ニ免セラル］とあり、本山下付の太子・七高僧の二幅は現在も継承されています。

【江戸期の東本願寺における聖徳太子】

江戸期の東本願寺における聖徳太子の位置付けは、大谷派初代講師・恵空著述の『叢林集』巻66「太子弘通」により決定づけられたといえます。

注目されるのは、冒頭に［聖徳太子ハ和国ノ教主諸宗ノ元基也］として、大谷派だけではなく「諸宗ノ元基」とした点があります。以下簡略して一部分を引用します 。

親鸞聖人は

ソノ御影（聖徳太子）ヲ渇仰シソノ和讃ヲ製作シテ嘆帰シ給ヘリ。

聖人自ラ言ク、ワレニ菩薩ノ引導ニ順シテ如来ノ本願ヲ弘ルニアリト云云、太子ハ観音也

サレバ太子ノ行化ハ畢竟シテ唯念仏ヒトツノ弘通ニ極マルベシ。

太子の徳として

薬種ヲウエ治療ノ道ヲ知ルモ太子ノ恩也、六芸等ノ道、大工細工ノ道、家ヲ作リ糸ヲトリ衣ヲ織ルモ太子ノ教恩也、鍛冶瓦ノ道、鋤クハノ道具マデ万民ノ資具コトゴトク太子ノ教恩也､文道武道ノ事又多ク太子ヨリ始ル

と広い分野に太子の影響を述べています。

サレバ聖人ハ仏智不思議ニツケシメテ住正定聚ノ身トナレハ太子ノ御恩也ト言テ帰敬奉讃シ給ヘリ。

コノ日本国ニ仏法ヲヒロメ給ヒシ恩徳ヲ知ラセンガタメニコトサラ是ヲ載セ奉ラルヽ也、就中聖人六角堂ノ利生ニ依テ自ラコノ仏法ヲ持チ人ヲ教テ遍クヒロメ給フガ故ニ殊ニ太子ヲ崇メ給ヘリ

と結んでいます。

江戸期における恵空の『叢林集』の聖徳太子観、太子理解が教団の主流になったものと知ることができます。

高山二組　東等寺住職　竹田雅文

『高山市民時報』ミニ法話『響』連載中

１１月の寄稿者

三島　多聞　（高山別院輪番）
小原　正憲氏（高山一組　專念寺住職）
澤邉　恵亮氏（高山二組　誓願寺住職）
帰雲　真智氏（高山二組　還來寺住職）
三島　清圓氏（吉城組　西念寺住職）

web ひだご坊でも「一口法話」配信中！

https://hidagobo.jp/

※印刷したものの郵送をご希望の方は、教務支所までご一報ください。

Youtube チャンネル「ひだご坊」からのお知らせ

高山別院では、Youtube チャンネル「ひだご坊」を開設しております。

このたび、三島多聞輪番が「帰敬式事前学習会」で帰敬式受式予定者の方々に、「死と再生」「念仏と罪福信」をテーマに話された様子をアップロードしました！

なお、同チャンネルには「Hit net TV!」で過去に放映された「ごぼうチャンネル！」、「映像仏典童話」もアップロードしておりますので、是非ご覧ください。

今後も随時、法話や研修会の様子などを紹介していきます。

Youtube チャンネル
「ひだご坊」

飛騨御坊真宗教化センター・高山別院　2021 年 11 月行事予定

※コロナ感染の状況により中止や変更になる場合があります。

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区	会 場
1	月		別 高山別院報恩講	本堂他
2	火		別 高山別院報恩講	本堂他
3	水		別 高山別院報恩講	本堂他
4	木	7:00	別 高山別院報恩講お浚え勤行	本堂
5	金			
6	土			
7	日	10:30	教 清見組門徒会研修②	了因寺
8	月	19:00	教 清見組親鸞教室④	了因寺
9	火	19:00	教 朝日高根組親鸞教室②	法正寺
10	水			
11	木	7:00 13:00 13:30	別 半日華 別 大谷婦人会報恩講　法話：輪番 教 解放推進協議会常任委員会	 本堂 郡上教会
12	金			
13	土	7:00	別 前住上人ご命日	本堂
14	日			
15	月	13:30	教 解放推進協議会　輪読会	高山教務支所
16	火			
17	水			
18	木			
19	金			
20	土			
21	日			
22	月	19:00	教 高山二組親鸞教室①	
23	火			
24	水	19:00	別 寺内報恩講	御坊会館
25	木	13:30	教 慶讃事業推進委員会	岐阜高山教務所
26	金	7:00 15:00	別 半日華 教 宗務改革事前学習会	
27	土	13:00	別 親鸞聖人お逮夜	本堂
28	日	13:00	別 親鸞聖人御命日　法話:櫻居　和彦氏（西光寺住職）	本堂
29	月	19:00	教 教研定例	研修室
30	火	13:30	教 法要教化部会	

12 月　**※１５日ころまでの掲載とし、定例行事は省きます。**

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院
1	水	19:00	教 清見組親鸞教室	10	金	19:00	教 高山二組親鸞教室
7	火	19:00	教 朝日高根組親鸞教室	12	日	13:00	セ 青少年　出張子ども会